

防災

放射性ヨウ素による甲状腺の被ばくを抑える
安定ヨウ素剤の事前配布説明会を開催します
 問い合わせ 防災課 大石 ☎ (23) 0058

対象者

浜岡原発からおおむね5キロメートル圏内の対象となる区(※)にお住まいで、安定ヨウ素剤をまだ受け取っていない人(ゼリー状の安定ヨウ素剤をまだ受け取っていない人を含みます)

※対象となる区

地頭方区、豊岡区、新庄区、遠渡区、落居区、相良区、福岡区、波津区、須々木区、大沢区

開催日・会場

10月17日(土) 相良小学校体育館
 ※詳細な日程が決まりましたら、個別の案内通知や市ホームページでお知らせします。

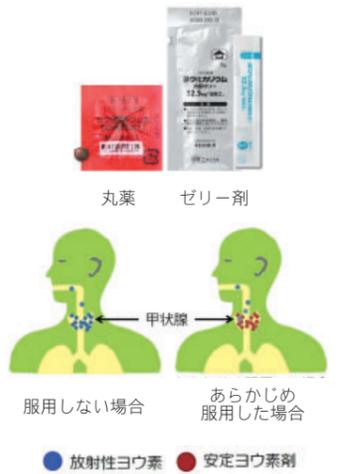
安定ヨウ素剤の配布方法

万一、原子力災害が発生して避難する時に、安定ヨウ素剤の服用を速やかに行えるようにするため、国の原子力災害対策指針に基づいて事前に配布します。

安定ヨウ素剤は、体質によっては服用後に副作用が起こる可能性があるため、会場で詳しく説明をしてから、服用可能と判定された人に配布します。同一世帯の場合は、世帯の代表者が代理で受け取ることができます。

※新型コロナウイルス感染症対策のため、ご来場の際はマスクの着用をお願いします。
 ※新型コロナウイルスの状況により、日程変更となる場合があります。

安定ヨウ素剤とは
 放射性ヨウ素による甲状腺の被ばくを抑える効果がある薬です。安定ヨウ素剤を前もって服用することで、放射性ヨウ素が甲状腺にたまるのを防ぎます。



環境

ごみの焼却は原則禁止です
屋外焼却の際は、届け出とご近所への配慮を
 問い合わせ 環境課 増田 ☎ (53) 2609

ごみの焼却は原則禁止です

秋から冬にかけて、屋外焼却による苦情が多くなっています。ごみの焼却は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により厳しく制限されており、ブロック積み、ドラム缶、一斗缶、法律の構造基準に適合していない焼却炉などでの焼却行為も禁止です。

焼却禁止の例外となる焼却を行う際には届け出を

○「どんど焼き」などの地域行事や宗教上の行事における廃材などの焼却
 ○農業者が行う稲わらの焼却、林業者が行う伐採した枝条の焼却
 ○たき火、キャンプファイヤーなどを行う際の廃材などの焼却



上記の焼却は例外とされていますが、焼却の際には、その都度、管内の消防署と市環境課に事前(平日の午前8時15分から午後5時までの間)に届け出をしてください。(電話連絡可)。

近隣や周辺住民にも配慮を

例外行為を行う際には、燃やすものを乾燥させ、風向きや燃やす量、時間帯などにくれぐれも注意し、すぐに消火できる準備をした上で、必要最小限で行うようお願いいたします。

政令で定められた行為とはいえ、周辺住民などから「前が見えないほど煙たい」「洗濯物に臭いがついて困る」「大きな火が上がっている」などの苦情が寄せられた場合には、焼却行為を即刻中止してもらうこととなります。
 周辺に暮らす皆さんの生活環境にも十分配慮してください。

問い合わせ・連絡先

環境課 ☎ (53) 2609
 吉田消防署 ☎ (32) 1141
 牧之原消防署 ☎ (53) 0119

政策

テレワーク育成事業(しずおか中部連携中核都市圏事業)
「自営型テレワーク」を無料動画で学べます
 問い合わせ 秘書政策課 飯田 ☎ (23) 0052

「子育てや介護と両立させるため、自宅で仕事をしたい」「地域の制約なく、自分に合った仕事をしたい」。このような、時間と場所を選ばない新しい働き方「自営型テレワーク」に関心がある人へ。行政が運営する自営型テレワーク推進サイト「GO TO TELEWORK」では、テレワークを始めるに当たって知っておきたい知識を、動画で学ぶことができます。

スキマ時間を活用して、まずは動画視聴から始めてみましょう。

対象 牧之原市を含む中部5市2町にお住まいの人
利用方法 「go toテレワーク」で検索、または左のQRコードを読み取るかURLを入力してサイトにアクセスし、利用登録してください(無料)。スマートフォンでも利用できます。



go to テレワーク 検索

<https://goto-telework.jp/>

歴史

シリーズ連載「感染症の郷土史」②
もうひとつの感染症「麻しん(はしか)」
 問い合わせ 社会教育課 長谷川 ☎ (53) 2646

前号で、文久2(1862)年のコレラの大流行を紹介しましたが、同じ年に、別の感染症も日本全国で大流行していました。麻しん(はしか)です。現代でも、感染力が非常に強く、特に子どもがかかると命の危機に関わる病気として知られています。

本市におけるはしかの流行については、前号と同じく、久保半七が著した『記録帳』(市史料館収蔵)に、次のような証言が残されています。

…四日、市三郎殿倅寿助行年廿五才ニ死ス、はしかのあとにて二而、至極立悪しヨラス、近來稀なるはしかはへり諸国一とう残りなくイタス、七月二日方はつ致ス、六日目八日目出揃、十一日目又はたて二より十三日目位二而、湯ヲかけ申候、又十四日より松五郎、おやす、おたけ、おべん、四人一どきニ致ス、此内おべん斗り少シたて悪し、八月三日死ス、…

この記事からは、「市三郎殿倅」の寿助が25歳という若さで亡くなったこと、久保家でも7月2日に「はつ」がかり、同14日には「松五郎」「おやす」「おたけ」「おべん」の家族4人にまで感染が広がったこと、さらに「おべん」の病状だけ悪化し、8月3日に亡くなった



▲麻疹絵「麻疹養生之伝」

(国立国会図書館デジタルコレクション)